

会議録署名議員には、6番、伊藤 麗議員、14番、宮島 宏議員を指名いたします。

## 日程第2. 一般質問

### ○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

### ○議長（松尾徹郎君）

横山議員。〔3番 横山人美君登壇〕

### ○3番（横山人美君）

みらい創造クラブの横山人美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、「翠の交流都市さわやかすこやか輝きのまち」糸魚川市の持続と発展に必要な施策の推進と一人一人の市民が施策への関心と理解を深めるための働きかけの必要性について。

国立社会保障・人口問題研究所が、昨年末に公表した日本の地域別将来推計人口によると、2050年、糸魚川市の人口の推計は約2万2,300人、現在の人口から45.1%の減少となりました。

人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保する「地方創生」が始まって10年、全国の自治体では人口ビジョンをつくり、地方人口の社会減対策と将来にわたって活力ある社会の構築を目指しました。しかし、結果的には全国で移住者の奪い合いとなり、コロナ禍において地方移住やワーケーションなどで地方のよさがクローズアップされましたが、東京の転入超過は現在も是正されていません。糸魚川市でも、移住・Uターン・定住の促進、出生数の増加と健康寿命の延伸、交流人口の拡大を上げ、「翠の交流都市さわやかすこやか輝きのまち」を目指しています。

様々な施策が展開される中で、今の糸魚川市に必要なことは、市民や地域、市内事業者と行政が全国的な人口減少の事実をしっかりと受け止め、現在の施策を検証し、たとえ人口が少なくなっても「市民が安心して幸せに暮らせる」ための社会システムを構築し、それぞれが果たすべき役割を明らかにしながら、共に同じ方向を目指すことであると考え、以下の質問をいたします。

- (1) 人口減に対応するための施策の現状、検証、課題、これからの方向性について伺います。
- (2) 市民の生命と財産を守る観点からの松本糸魚川連絡道路、東バイパス、親不知道路の整備を早める必要性と、それに伴う市内産業の活性化について伺います。
- (3) 若い女性の声や思いを聴き、施策に取り入れる必要性について伺います。
- (4) 子供たちの声や思いを聴き、地域全体で子供たちを育む必要性について伺います。
- (5) 災害緊急時に一人一人の市民が取るべき「命を守る行動」の正しい認識の必要性について伺います。

以上、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

横山議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、総合計画において、重点課題として人口減少対策を位置づけ、様々な分野において取り組んでおり、人口動態や人口推計のほか、事務事業評価を通じて検証し、施策を進めております。

1 2月に公表された日本の地域別将来推計人口では、第3次総合計画策定時の人口推計より、減少幅は改善する推計となっております。引き続き、持続可能なまちづくりに向けて、人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに対応した取組を進めるとともに、人口減少に対応したインフラの在り方について検証してまいります。

2 点目につきましては、災害時における命をつなぐ必要不可欠なインフラであるとともに、地域交流、物流面でも大変重要な道路であることから、早期の整備に向け、引き続き国や県に働きかけを行ってまいります。

3 点目につきましては、特に若い女性の市外への流出は大きな課題であり、人口構造や出生数の改善に向けて、女性が暮らしやすく、働きやすい環境整備を進めていく必要があります。様々な機会を捉え、女性の意見をお聴きし、施策に反映してまいります。

4 点目につきましては、多様なニーズに寄り添いながら、地域全体で子育て支援を行っていく機運の醸成や応援できる仕組みが必要と考えており、そのための周知啓発を図ってまいります。

5 点目につきましては、災害など、いざというときに自分や家族の生命・財産を守るためには、日頃から自分自身、家族全員で備えることが重要であり、ハザードマップの確認や食料等を備蓄するなどの取組について、改めて情報共有してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

では、1番から順番に質問したいと思います。

まず、移住施策について。

Iターン・Jターンなどの施策を糸魚川市としては何年くらい続けていらっしゃいますか。

また、施策によって定住に結びついた件数の推移、移住した方が転出したケースはありますか。

また、その場合、要因は捉えていらっしゃいますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

おはようございます。

お答えいたします。

まず、いつから移住施策に取り組んでいるかというところでございます。

地方創生の地方版総合戦略の取組と連動いたしまして、平成27年度から定住促進課を立ち上げまして、人口減対策係の取組として、移住・定住に関する業務に取り組んできたといったところかと思えます。現在までに約300世帯430人ほどの方が移住支援制度を活用した後、定住していただいているといった状況を把握しているところでございます。

制度利用期間後の動向につきましては、なかなか追跡調査までは実施しておりませんで、市外で新しい就業先が決まって転居されたりとか、また、体調の関係で、例えばご実家のほうに戻られたりとか、そういったお話は聞いているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

平成27年から300世帯430人ということなんですが、これが多いと捉えるのか少ないと捉えるのかというところは、ちょっと私も今判断はできないんですけども、ではちょっと視点変えて、糸魚川市では、特に若者・子育て世代から選ばれる地域を目指して、新しい価値観に対応できる地方創生を目指していらっしゃると思いますが、狙いどおりになっていますか、また、糸魚川市が考える新しい価値観とはどのようなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

昨今の動きの中で、テレワークの推進によるリモートワークの普及ですとか、地方に生活拠点を移す2地域居住の進展といった動き、そういったところに対応するのが新しい価値観といったところになってこようかと思っております。そういったことを念頭に総合計画に記載させていただきながら、移住政策を進めているというところでございまして、取組としましては、体験型の移住施設を活用した移住体験ですとか、また親子ワーケーションの受入れを通じて、若者・子育て世帯に対する移住支援制度の拡充を図っておって、一定の成果は上げているものというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

一定の成果ということですね、分かりました。

内閣府によるミニ経済白書では、25歳から44歳までの子育て世代の東京脱出が2019年以降続いて、近隣の3県、神奈川、埼玉、千葉からの転入を上回り、2022年には1.5万人強、子供世代でも8,000人超えの転出超過等を報告しています。

背景には、東京23区の新築マンションの平均価格が初めて1億円を超えたという背景を示していますが、この若い世代の人たちは、首都圏近郊に住まいを持とうとしている傾向があるということです。

移住施策に取り組む糸魚川市として、この結果をどのように分析いたしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

たしか以前に通勤時間が短いほうがよいといったこともありまして、23区内のマンションが売れたと。今現在も多分そのような状況から高くなってきている。そこに対応できない方々が、郊外のほうへ移動されていると、郊外のほうに住居を求めるといった状況になっているのかなど。例えば所得構造が二極化しているとか、そういった分析ができるものと思います。

また、通勤時間が長いといったところは、コストパフォーマンスとかタイムパフォーマンスといった、今どきの若い方々にはあまり好まれないんでないかなというふうに考えておりますので、状況のほうは注視していきたいというふうに思っております。

そういう状況の中で糸魚川市としては、例えば住居費を抑えて通勤時間を我慢するんだといったような状況が、首都圏のほうでそういう状況があるのだとすればですけれども、通勤時間が短いよといったところも糸魚川市としてはPRできるんじゃないかと思っておりますので、そういった観点も含めてPRを、移住施策のほうを取り組めればなというふうには考えてございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

総合計画には、地域や企業による理解と受入れ体制の充実、移住者に寄り添った支援制度の確立により、関係人口からの創出から緩やかな移住を進めていくとありますが、こちらについての成果はいかがでしょうか。課題はございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

移住という言葉のきっかけとなるところには、例えば若者世代、子育て世代が移住を考えるきっかけとなるところには、何らかのご縁といいますか、そういったところがなくてはならないんじゃないかなというふうに思っております。

したがいまして、今ほど議員おっしゃられたような関係人口の創出から緩やかな移住を求めていくというのが、現在市としても取組を進めているところでございます。例えば移住体験メニューの

中では、地域と、来ていただいたとしても地域と交流していただいたり、また、移住者と地域双方の理解を深めていただくという取組もさせていただいておりますし、そういった取組で、また縁をつなぐということが一定の成果につながるのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

NTTドコモのアンケートでは、2023年、テレワークの実施率は全体で14.6%、また勤務先がテレワークを導入していないとしている企業は、全体で74.6%という数値が出てます。総務省の2022年以降のテレワークの実施率は30%で推移しているという数字も出ております。日本全体でもテレワーク、リモートワークが浸透していない実態がある中で、2拠点移住やワーケーションなどで関係人口は創出できたとしても、関係人口自体が観光以上、移住未満と例えられるように、糸魚川への親しみを増す交流ができたとしても、そこから移住・定住に結びつけるとなるとハードルが高いのではないかと心配いたしますが、その効果はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

テレワークですとかワーケーションといったところの浸透が、なかなか伸びてないんじゃないかといったところのご指摘かと思っております。そういったご指摘のとおり部分も確かにあります。

ただ、先ほど申し上げましたように、やはり何らかのきっかけを求めていくとすると、そういったところに活路を見いだしていくといいますか、関係人口といったところで取組を始めていくということが大切かなというふうには考えてございます。

ただ、議員おっしゃるとおり、そこから先のステップというのが非常に難しく、ハードルがなかなか高いものだというふうにおりますので、先ほど申し上げましたような何らか人と人とのつながりですとか、地域との関係性といったところを移住を希望される方からご覧いただいて、そういったところから何とか移住・定住につなげるような取組をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

移住を全て、私、否定しているわけではございません。

市長にお伺いしたいと思います。

アフターコロナの時流においても、日本全体の人口減少の現実を直視しても、長年取り組んだ移住施策の見直しが必要なのではないのでしょうか。

または、ほかの施策への比重を再検討していく必要があるのではないのでしょうか。例えば、Iターン・Jターンだけではなく、Uターンも含めて、今現在、糸魚川市に住んでいる人へ向けた定

住への働きかけを強めることが、また定住につながるのではないかと私は考えております。

まずは、この移住施策について、現在の市長のお考えをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に人口減少問題につきましては、当市の中でも重要課題として捉えておるわけであります。そういう中で、この糸魚川をやはりどのように捉えているか、非常に過去からもそうなんです、コロナ禍において少しスタンスを変えた部分もございます。そういう中で、糸魚川のよさを関係人口の中で、なかなか増えない人口に対して、そういう関係人口というものもあるんじゃないかと、交流人口、もういろいろ叫ばれてきた部分がございます。どれにしても、やはりなかなか苦戦をしておる状況であります。そういう形の中で、やはりもう一度見直して、それであってもやっぱり糸魚川はいいじゃないかという形で、まずは足元を見るのも必要だろうと思っっている次第であります。

そういう中において、我々のよさをどう伝えていくのか、どう理解していただけるかというところを考えますと、いろんな考え方があって思っております。まず、自然であったり、そして人間性、ここに住んでいる市民の人間性であったり、そういった、そしてまた文化とか、いろんな事柄があると思っております。やはりそういったものを全て100%ご理解いただいて、その上でお考えいただくことが大事だと思っております。ややもしますとなかなか理解してなくて、よその、隣の家の芝生が青く見えたり、都会がよく見えたりというような形で流出されるというのは非常に残念に思います。一時的によそで学んだり、働いたといたしましても、やはり糸魚川はいいなと言って、やはり糸魚川が100%知っていることが、帰ってくるきっかけにもなるんじゃないかな。そういったところを力を入れていきたいと思っております。糸魚川のよさをどれだけ知っていただくという活動も、やはりこの移住施策に併せながらしていかなくちやいけないと思っております。

その中においては、やはり教育の中でもキャリア教育フェスティバルなどをやりながら、子供たちにもしっかりと理解いただけるような形も取っております。教育の面においても、しっかりといきたいと思っておりますし、また、市民の皆様方にも情報共有をどういうふうにしていくかと。やはり工夫はしっかりとしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

糸魚川のよさをしっかりアピールしていくというところで、では次に、そのUターンと、今現在、糸魚川市に住む子供たちや若者の定住についての質問をしたいと思います。こちらは4番目の質問にも関連しますので、併せて質問させていただきたいと思っております。

高校を卒業した子供たちのほとんどが、地元を離れて進学や就職をしている現状がございます。地元を一度離れた市民、子供たちが、再び糸魚川へUターン、帰ってくる、Uターンに結びつく要素を何と捉えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今年度取り組んできた人口減少のプロジェクトの中でも、高卒時の進路といったところのパーセンテージを見る中で、糸魚川は、市内の3高校の進学率というのが70%を超えているといった状況でございました。そういったところにも着目しながら、今ほど議員おっしゃるようにUターンといったところも強く進めていかなければならないところだと思っております。

Uターンというのは、糸魚川に家族がいるとかという、ご縁があるといったところが、まず大きなきっかけとして帰ってこられるということなんだろうというふうに思っております。ジオパーク学習をはじめとした郷土愛を醸成する取組、先ほど市長が申し上げたような取組も大切だと思っておりますし、それ以外にも保護者の方々のご意向ですとか、それから希望する仕事、職種といったところも大きな要素ではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

Uターンが進まないの理由としてよく聞くんですけど、糸魚川には仕事がないとか、働く場所がないと言われますが、それは本当でしょうか。なぜ選ばれないかを考える必要があると思いますが、その点についてはどう分析されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

仕事があるかないかの指標につきましては、ご存じのようにハローワークの有効求人倍率や新規高卒者の求人倍率で表すことが可能だと思っております。いずれも、ご存じのように求人倍率は高い数値でありまして、客観的に考えてみても、仕事や働く場所は、糸魚川市にはたくさんあるかなというふうに思っております。

しかし、やはり選ばれない理由としましては、自分が望む職種、また、大学や専門学校等で学んできたスキルを生かせる業種が少ないからではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

人の一生において、望む職業に就いて一生働けるケースというのは、私、人の一生にとってはまれなんじゃないかと思えます。誰もが人生のいろいろな節目において、生活のため、生きていくた

めに巡り会った職業において、自己実現と自己抑制を重ねながら、今までも皆さん働いてきているし、これからも基本はそうであろうと私は思っております。

ただ、20代の若者は、望む職業に、働きやすい職場環境、そして成長できる仕事を求めるようになったという調査結果がございます。全般的に、転職に対しては肯定的な傾向が強まっていますし、この職場では働きにくい、成長できないと感じれば、早々に、または初めからその職場を選ばない可能性があるのではないのでしょうか。もしかしたら糸魚川の企業には、そのような職場のイメージがついてしまっているのではないかと心配します。実際はどうかを知る機会、それから理解を深める機会、イメージを変えていくことが必要だと思いますが、こちらについてはどうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

若者が、その企業に対してどのようなイメージを抱くかは別としまして、企業の皆様は、自社が存続するためにより高い利益を求めると、お客の満足度を高めることを常日頃努力されているというふうに思っております。その中の、取組といたしまして、労働環境を整えたり、従業員の労働意欲を高めるために日々考えられておるんじゃないかなと思っております。このことが、やはり企業の存続につながっていているんだと思っております。

そのようなことから、私らとすると、側面的な企業活動の支援として採用活動や生産性の向上、また、従業員のスキルアップや設備投資などの支援を行いまして、企業の取組を今以上に向上させることが、私ら行政の努めではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足して、お答えさせていただきます。

今、大西課長が述べたことに、また少しつなげて、過去はやはりそういった企業イメージがやはり非常にまずい状態を、やはりまだ古い感覚の中で持っとられるんじゃないかということは、どういうことかということ、やはりこの長い歴史の中においては糸魚川の企業の皆さんというのは長い歴史がございます。そういう中において、今お子さんたちは誰の意見をお聞きするかということ、やはり親の意見を聞くというのが一番あるみたいなので、親の皆さんが、その会社は、糸魚川の会社はどうだろうということ、やっぱり昔のイメージの判断しかないというところを感じるのではないかと、以前に行いましたが、そのパンフレット、企業のパンフレットをつけるご支援、そしてまた、企業を見学、工場を見学したり会社を見学するという制度に対して、取組を行ってまいりました。それをすることによって企業の皆さん方も、やはりしっかりと自分たちの会社をアピールできるんじゃないか、PRができるんじゃないかというような形で、今、企業イメージを図ってまいっております。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

Chill Night Meetingだとか、あと建設業協会の方と白嶺高校との合同事業、あと糸魚川信用組合と海洋高校主催の地域クラウド交流会などが、先日も報じられていました。事業者と若者が相互に糸魚川への理解を直接深める大変すばらしい取組とっております。このような取組をUターンや定住に向けて、今後どのように生かしていこうとお考えでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

ご存じのように、私たちはこれまでも企業の見える化や地元就職を促進するために、高校生におきましては企業見学バスツアー、またインターンシップを、大学生等については、就活フェア以外にも企業説明会や企業のPRフェスティバル等を実施させていただいております。

今ほど、委員ご紹介いただきました取組についても、一定の成果があるものと評価しております。引き続き継続していく必要があるというふうと考えております。

いずれにしましても、Uターンを促進するために、正解や特効薬はありませんので、時代の変化に応じながら、様々な可能性にチャレンジさせていただきたいなと思っております。そのために、市内で活躍する大人たちと若者の接点を増やしていきまして、その取組を点から線に、また線から面に変えていくことで、地域全体をUターンを歓迎する風土、またUターンしやすいまちのイメージづくりを図っていききたいなというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

多様性が重視される社会において、市内の企業の方から、職場において世代間ギャップにどうしていいかわからないという声を聞くことがあります。お互いに理解するために、世代間の交流を意図的につくっていく必要があると考えております。

ではちょっと視点を変えて、市内の企業の協力を得て商品開発、例えば海洋高校さんのような取組を糸魚川高校や白嶺高校でもやりたいと思っている生徒さんがいらっしやるのではないのでしょうか。子供たちの声を聴いたことはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

おはようございます。

直接、高校生からそういったような声というのは聞いておりませんが、実際、高校魅力化事業の中で放課後などの時間を利用いたしまして、これまた、事例でございますけれども、コンビニの商品開発をやってみようといったようなことを、探求プロジェクトという中で高校魅力化のコーディネーターが中心となりまして、高校生、また、それ以外の地域の方々とのつながりを持っていくといったようなことを実践しているような例がございます。今後も、様々な市内企業の協力を得る中で、実際そういったものを体験してみる、チャレンジしてみるというのが高校生にとって大切だと思っておりますので、また機会を捉えまして、そういったプロジェクトの中で進めていければと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

高校生に自分で企画して稼ぐ仕組みを体験する機会や、あと世代、学校、地域を超えた仲間づくりをして、働く喜びや企画を実現する、喜びを体験する機会の創出については、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

市では、幼少期から一人一人の社会的、また職業的自立に向けまして、キャリア教育を推進してきているところでございます。

そういった中、今、実際、高校生ではというふうなお話がありましたが、今年度、糸魚川高校の2年生では、総合的な探究の時間を利用して、地域の人困っている人に話を聞き、一緒に考え、また企画し、実行するといった授業を行っております。高校生が地域の人と一緒に考えることで、高校生は相手の立場に立って考えることで、人の気持ちが分かるようになったとか、また、社会に出たような感じがしたといったような感想も聞いております。今後も学校と連携し、高校魅力化コーディネーターがサポートする中で、このような体験ができる機会を増やしていきたいというふうに考えておりますし、先ほど横山議員からもお話ありました建設業協会との連携の中でも、実際に高校生が働くことに携わることで、高校卒業後の自分のイメージを持てるようになったといったような意見から、地元就職にもつながっているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

何で都会へ憧れて、何で都会へ向かうのかというのを考えてみる必要性があるのではないかと思います。私も都会で就職して、暮らしたことがありますけれども、都会でなかなか就職して暮らしてい

くには、何ていうんだらう、もう暮らすだけで精いっぱい、人生設計には不向きであることは、先ほどの東京脱出の例でも分かると思います。

糸魚川市は、高速道路のインターチェンジが市内に3つもあります。そして新幹線の駅もある。このことはほかの自治体と比べても恵まれていることを、ぜひ中高生を含めた若い世代にPRしていくことが大切ではないでしょうか。特に新幹線は、関東、もうじき関西にもアクセスがよくなります。プライベートを充実するにはもってこい、商工観光課の職員さんのお言葉を借りれば、どこへ行くにもまあまあ近いという利点を自信を持ってアピールして、また地元においても、首都圏と容易につながるができる糸魚川の利便性を体験する機会を与える施策を考えてみてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほど議員おっしゃられたように、新幹線ですとか高速道路のインターチェンジがあるといったところ、そういった交通インフラを活用して、必要なときに、また容易に都市部へアクセスできるといった糸魚川の立地というのは、以前にも市内で若者の方から意見を聴いたときには、非常に糸魚川の強みだと、交通というのは非常に強みなんだといったようなお話を聞いたのを今思い出しております。そういったところですか、そういったところにある糸魚川での暮らし、ライフスタイルというところをアピール材料として、Uターンを希望する方々にも訴えていきたいというふうに思っております。糸魚川で就職すれば、東京圏は容易に出て、遊びに行くことも可能だよとか、またちょっと具体的にはどのようなスキームになるか、これから検討になりますけれども、定住された若者が都会へ出ていく際に、何らか、例えば自己研さんで東京へ向かうとか、そういったときの支援とか、そういったことも考えられないかというふうなところも今少し、今後の検討材料としていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

中学生とか高校生も含めて、この糸魚川に定住するということを考えたときに、便利な状態があるということを知ることと実際に体験するという事は違うと思うんですね。実際に体験してみる機会というのをもっと数多く提供するというのもどうかなというふうに思っております。糸魚川に住みながら、私も経験ありますけども通信教育で学ぶこともできます。文化活動や遊びも含めたスキルアップ、キャリアアップ、プライベートの充実の可能性は十分に広げることができることを高校生やUターンを考える人たちに体験、満足してもらえるような施策の展開に期待いたします。

では次に、キャリアチェンジしたい。例えば農業林業漁業など、都会ではなかなか経験しにくい職種への挑戦、貢献したいと考えるUターン者の環境づくりについて、キャリアチェンジをしたいと思う人たちに、既存の人脈やコミュニティのつながりを求めた起業、Uターンを考えている人が

事前に糸魚川とつながり、安心してもらえるような、そんな施策はございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

Uターンを希望される方の全般的なお話ということで、企画定住課のほうでお答えさせていただきますが、先ほども仕事というのが、移住を考える際の一つの要素だというお話からになりますけれども、やはりきっかけの一つとして、移住の職業の選択肢の一つとして農林水産業を志す、1次産業を志すという方が一定数おられるといったことも承知しております。

また、新たにそういった1次産業へ従事を希望する際には、様々な支援制度があるものというふうに思っております。市としてもU・Iターン、Uターンも含め、移住される方々が移住、1次産業に従事していただくきっかけとしては、例えば地域おこし協力隊といった制度を活用した移住であったり、こっちへUターンであったりとかといったところも活用も行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

地域おこし協力隊は、Uターンでも利用できるということによろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

地域おこし協力隊は、首都圏にお住まいの方が地方へ移住するということと、自分の自らのスキルを生かして、地方で地域の活性化に取り組むといった2つの視点でできるものでございまして、首都圏から、例えば糸魚川市へ来るということであれば、住所を移すということであれば、Uターンといった方でも可能でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

理解いたしました。ありがとうございます。

では次に、人生のセーフティーネットとしてのUターンの環境づくりについてお伺いしたいと思います。

Uターンといえば、めでたく学校を卒業してとか、都会で人生経験をしてといったイメージなんですけど、人生上の困難、例えば学校生活、都会生活、就職先になじめないといった面に直面した若者が、途中で目指した道を諦めて、Uターンを選択するケースがございます。行政支援がこのようなUターン者には、届きにくいのが現状とされている研究がございました。糸魚川市にはこのよう

な、どちらかというとネガティブな理由でUターンしてくる人への受入れ施策というのはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

ご質問いただいたように、都会での生活になかなかなじめずにUターンされるという方もおられるんだろうとは思っております。そのような方々というのは、なかなかお申出いただかないと分からないのが現状ではないかなと、行政としては、ではないかなというふうに思っておりますし、また、今ちょっと考えましても、なかなか支援制度というのはないのかなというふうに思っております。

ただ、僅かなつながりということにはなりますけれども、Uターンであれば、Uターン制度の活用といったところで、企画定住課のほうでも窓口を設けてご相談対応させていただいておりますので、そういった際にでも、何かお困りのことはございませんかとか、そういったお声がけはできるものと思っております。ちょっとそれぐらいの対応かというふうには思っておりますけれども、例えばそういったお話をさせていただきながら、ほかの部署を紹介するとか、つながらせていただくといった取組もできるかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

過去に私も、教え子に何件か同様の相談を持ちかけられたことがございます。親元を離れた若者は、人生の困難に直面した場合、親に心配かけたくないとか、今さら糸魚川へ帰るのが恥ずかしいとか、近所の人に知られるのが嫌だなど苦しんでいながら、Uターンをすること、またはUターンしたこと、することを否定的に捉える傾向があるのではないかと。帰って来たくても来られない人たちへの支援のニーズがあると考えますが、こちらについてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほど議員おっしゃるようになかなか糸魚川に帰りづらいと、帰ってきたいんだけど帰りづらいといった事情もあるのだなというふうにお聞きさせていただきました。

先ほど、大西課長も申し上げたとおり、帰ってきやすい雰囲気であったり、まちづくりであったりというところが必要なんだなというふうにご考えておるところでございますけれども、先ほどちょっと近いところになります、行政ではなかなか都会でそういった方々が、元市民の方が苦しんでおられるという状況を知る手だてがなかなかないといったところがあるかと思っております。例えば首都圏での移住相談会の際にお越しいただいたりとか、糸魚川での仕事はどんなのがあるんだといったようなご相談をいただく際には、何らかお話をさせていただくということが可能かと思っております。

おります。例えばそういう仕事の面で見ますと、担い手不足のところ、人口減少の中で糸魚川市はございますので、貴重な人材としても、なっただけのように、Uターンをしていただけるような取組というのは大切なというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

受入れ窓口のようなものが、あるといいだろうなと私は思います。

ネガティブな感情を克服する過程で重要とされているのが、地域住民、行政職員、家族、友人などの多様な人による、今、課長さんもおっしゃいました地域活動への誘いに効果があるとされています。Uターンしてきて、地域の中に居場所があるというのは大変重要な要素だと考えております。

では、地域の中の、地域ということで地域の活動の実態についてお伺いしたいと思います。

地域づくりプランのその後はいかがですか。また、Uターンを考えるきっかけとして、様々な地域活動に都会にいる人が帰ってきて、参加するような事例は市内にございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

地域づくり活動の中で持続可能な地域の実現といったところで、地域の皆さんが自分ごととして地域のことを考えるとといった取組で地域づくりプランというのを現在で15地区になりますが、策定いたしております。

ただ、活動に関わる住民の方々が減少してきているという現状もありますし、なかなか若手が育たないといえますか、代替わりもなかなか難しいといったような現状があつて、Uターン者も含めまして、新たな活動の担い手となっただけの方というのは大変重要なものになっております。地域が元気に活動をして活性化することで、そういうところを見て、地方移住を希望するという場合もちろんあると思っております。活動への参加を促したりすることで、先ほど来申し上げて地域とのつながりというのもできてくるものだと思っております。

現在、行政のほうで取り組んでるものとしては、大学生が地域活動に参加していただくという大学連携の事業はございます。それ以外だと、その地元の地域活動に、帰ってきて参加するということだと、都会ではないかもしれませんが、地域のお祭りやなんかに参加するというのは、事例としては私もお聞きはしているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

地域によっては、今、課長さんおっしゃるような担い手が少なくて存続が難しい行事なども出てきております。そのような地域活動に施策を当てて、例えばお祭りに帰ってきませんかなどとPRする方法があると思います。

先ほど同じ同僚の議員と話してたんですけども、おかえりなさい翠ポイントみたいなね、そんなのも付与しながらPRする方法があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

地域が元気で活動する地域が活性化することで、そこを外から見ている方々がいいなと思って戻ってきたり住んでいただいたりするということ、その辺りも地域の方々もよく分かって地域づくりプランというふうには取り組んでいただいているものと思っております。

なかなかちょっと翠ペイの発行したりとちょっとあれですが、イメージが湧かなくて申し訳ないんですけども、地域づくりプランといいますか、そういう地域づくり活動の中で地域の皆さんが、そういったところを呼びかける、働きかける取組というのは、非常にいいことかなというふうに感じております。聞かせていただきました。また、地域のほうにも、そのようなご提案のほうはお伝えしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

糸魚川市における地域活動であったりコミュニティづくりの施策のさらなる展開に力を入れてほしいと思います。都会で暮らす糸魚川市民に向けて、周知と参加を促す、Uターンにつながるかけ橋をつくって、かけた橋は壊さない、外さないことが私は大切なのではないかと考えております。では次に、3番の質問に移りたいと思います。

若い女性の声ということですが、まず、様々な分野において社会進出が続く糸魚川の女性の生の声を行政が聞く機会がございましたか。また、これから計画はございますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

若い女性の声を聞くというところで、総合計画の審議会において、女性の審議委員さんからももちろんご参画いただいております。また、そのほかにも様々な計画策定の際には、女性の方からも参画いただいているという状況でございます。

今ほど議員おっしゃるとおり、人口減少対策の中で若者の定住、特に若い女性の定住というのが大切でありますので、具体的にこのような形でということ、なかなか今申し上げられないんですが、先ほどの審議会での委員さんのほかにも何かできないか、引き続きいろんな機会を捉えながら、話を聞けるところを、ご意見を聴くようにしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

例えば市役所は、市役所には多くの子育て世代や仕事と家庭を両立しながら勤務する女性がたくさんいらっしゃる職場のよい例だと考えますが、そのような職員さんに子育てや仕事に対する認識について、施策を立案する場合、直接話を聞いたり、施策について市役所内の女性の方々と話し合ったりする機会というのはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

市の業務の中で、例えば予算編成とか政策立案といったところにおいては、そういう職員の方が担当する業務というのももちろんあるかと思えます。そういった自分の業務の中でご意見を反映するというのは、もちろんあるといったところかと思えます。

それ以外にも庁内委員会ですとか、今回のプロジェクトの中でも若手の職員から意見を聴く場面だとかといったところで、様々な場面で職員から参画してもらって、意見を聴いたり、計画策定に携わっていただくといった場面があるといったような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

そのような機会があるというふうに理解いたしました。

では、地方の少子化は、女性がいないという人口問題よりも、私は労働問題だと思っております。女性が活躍できる土壌が整っていない、または整っていても知られていない要因が考えられます。女性と語り合う機会というのは、これからますます大切になってくるのではないかと考えております。

市内には、市役所を含めてワーク・ライフ・バランスを実現できるハッピーパートナー企業が約30社ぐらいあると思うんですけども、この認知は広まっていますか。また、それらの企業の取組は順調に進んでますでしょうか。どのように紹介されていますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

お答えします。

ハッピーパートナー企業制度につきましては、県の事業でございまして、県のホームページで企業名と主な取組が公表されております。また、県が発行している広報紙におきまして、企業の具体的な取組等の事例が紹介されているところでございます。また、市につきましても登録企業名等につきまして市のホームページで紹介するほか、広報等でも周知しているところでございます。

また、取組の進捗状況ということなんですが、登録された企業は、その取組の状況を年に1回県のほうに報告することになっております。



ただし、この内容につきましては公表されておりませんので、市としても把握はしておりません。  
以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

県の事業ということで、市の中ではなかなか把握ができないということなのですが、市内にこのようなよい取組があるのをもう少し市民に広めてくのは、市は連携できないものでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

取組の内容につきましては、公表されているものでございますので、市のほうでも、例えば市内企業さんの具体的な取組、またはその取組の苦労した点とか課題等について広報等でお知らせすることができるかと思えます。

また、そういった形で、女性の活躍に向けて積極的に取り組んでいる企業さんのほうの紹介を力強く進めていきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

少子化・子育て施策について異次元をうたって、国、県、地方自治体を挙げて施策を展開してありますが、現代において、国のためとか地方自治体のために子供を持つようとしている人は、私は少ないのではないかと感じております。少子化・子育て支援は、いま一步、労働問題も含めて女性の気持ちに響いていないのではないかと感じております。子供がなぜ生まれるのか、なぜ子供を産みたいと思うのかの原点を立ち止まって考える必要性を感じております。

20代男女において一度も交際したことがない男性が46%、女性は約30%の数値がございます。子供たち、私も子供たちと日々過ごす中で、20年以上一緒に過ごしてますけども、最近異性に興味を示す子供がぐんと少なくなったと感じております。これはまた別の機会に質問したいと思いますが、人と触れ合う機会の減少が、少子化に大きく影響しているのではないかと感じますが、この点についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

私のほうからお答えさせていただきたいと思えます。

確かに、少子化の原因というところを今、議員のほうは、非常にいい点を突いていただいたと思います。少子化は、国もそうなんですけども、行政もそうですが、どうしても経済的な支援というところに目がいってしまう部分があると思うんですが、やはりその交流とかというのは非常に大事だと思います。今のプロジェクトの中でも、何とか若者同士の交流の場というところをどうやってつくっていくのか、どうやってこうやって皆さんのところへ実感していただいて、響いてこっちへ出てきていただくか、そういったところの、やっぱり私たちとまだ若い人の考え方が違いますよね。なので、そういうところをやっぱりしっかり分析をする中で、どうしたら出てきていただけるのか、うまく交流が、ただ形だけに終わらないのか、そういうところはしっかり分析して、進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

若い女性の声や子供の声や行政に届ける仕組みづくりが必要だと考えております。私たち議員もその一翼を担って、行政と共に声を聴いていきたいと思っております。女性や子供たちだけでなく、市全体にも、市民全体にも、皆さんが心を込めてつくった地域づくりを含めた行政施策を丁寧に伝えて、関心を持ってもらうことが、糸魚川に親しむ気持ち、糸魚川で暮らしたい気持ちを育てると思いますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に我々行政としては、どうしてもやはり形が大切なようなところがございまして、形から入っていく部分が結構多くて、やはり本心を突いてない部分もあるのではないかなと。そういったところをしっかりと我々検証しながら進めなくてはいけないと思っております。子供たちを増やしたいという気持ちが先になって、制度とか、そういった今言ったように金銭的な部分でやるだけではないかというような感覚なんですけど、それだけではないだろうと思っております。どういう形で結婚したいとか、そして子育てをしたいとかという、やはりそういった我々、今制度の中においては、本質を捉えてない部分があるから、やはりより多くのそういった成果に表れてないんじゃないかなというのを考えてる次第でございまして。

そういう中で、いろんな考え方の中で今取組をさせていただいておるわけございまして、それにはやはりそういった本当の、その最前線に位置する女性の皆様方の声や、そしてまた、そういった、それとやはり並列におります男性の声というものをしっかりと聴いていかななくてはいけないし、そういう中において働く職場というのも大切になってこようかと思うわけございまして、そういった、行政だけではなくて、企業もその中に加わっていただいたり、いろんな面でやはりそういう周りにいる組織・団体、そういったところと連携しながらやっていかなくちゃいけないんじゃないかなと思ってる次第でございまして。

本当に、昨今、本当に今、人口減少というのは大きく捉えられておるわけでありまして、私が生まれた1949年におきましては、260万人の子供が生まれたのが、現在、昨年でしょうか、4分の1、3分の1になっておる75万人だというような話も聞いておるわけでありまして。このまま減少したら、やはり当然、糸魚川も非常にどうするのかという不安もあるわけでありまして、日本全体がやはりどうなるかという大きな問題でございますので、やはりそういったところを今本当にしっかりと捉えていきたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ありがとうございました。

では、2番の質問に移りたいと思います。

市民の生命と財産を守る観点からの道路整備についてです。

まず、道路の果たす役割はたくさんございますが、それぞれの道路の工事の進捗により、地域産業がどのように活性化すると見込んでいるかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

おはようございます。

お答えします。

松本糸魚川連絡道路などの幹線道路が開通することによりまして、姫川港を中心としました物流が活性化しまして、地元企業の生産拡大へとつながりまして、地域経済の好循環が図れることを期待しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

第3次総合計画には、道路の早期整備、完成の必要性も明記されております。路線の工事の進捗、今後の予定、早期に進まないことがあれば、その課題については何か、それぞれの路線について、伺わせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

それぞれの路線ということでございますけれども、まず、松本糸魚川連絡道路のほうにつきましては、今、一部工事のほうが進んでいる状況でございますけれども、国道8号につきましては、現時点

では、調査業務やルート選定に時間のほうを費やしている状況でございます。今後は、課題等の解決に向けまして、事業主体であります国と地元住民の皆様と、協議と調整を進めながら対応のほうを進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

それぞれの協議を進めるということですが、それらの道路について、市民への周知と理解、道路に関係のある地区民の理解というのは進んでいらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

昨年も、松本糸魚川連絡道路と東バイパスにつきましては、地元の説明会のほうを開催させていただきました。

まず、地元住民の皆様には整備方針といいますかをご理解いただくことが重要であると捉えております。今後も、国・県と随時、情報共有のほうをしながら事業進捗のほうを努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

工事の主体は、県・国でございますが、この道路が糸魚川市のこれからにとって必要不可欠であるという機運を、どのように高めていくのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

市民への関心を高めるために、道路整備の効果とか必要性について情報発信を行いまして、工事の本格着工や、あるいはルート、未決定区間の早期決定など、事業を着実に進捗させることで機運が高まるものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

市民全体で、この機運を高めていきたいなと思っております。

では次に、それぞれの道路について、市民の命と財産を守る観点から質問いたしたいと思います。

今回の震災においては、名立地域内ののり面の崩落、高速道路の通行止め、それにプラスして津波の危険性において、国道8号高速道路の災害時における道路機能の脆弱性が明らかになりました。

防災面においては、国道の市振、徳合、平岩が通れなければ、糸魚川市は陸の孤島になります。震災などで万が一、陸の孤島になった場合の地域住民の命を守るルートとして、空または海からの出入口が考えられます。

先日の質問で、市長よりポートフェスティバルにおいて、訓練の機会をつくるといったお考えや、離発着可能な緊急ヘリポートは35か所あるとご答弁をお聞きしましたが、この体制は、今後どのように整えていこうとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、陸路が絶たれば、当然、糸魚川市は陸の孤島となることで、対応を検討しておく必要があると考えております。そんな中で、またこれも議員おっしゃるとおり、空から、あるいは海からの救助、あるいは緊急輸送路を確保しておくことも大切だと思います。

そんな中、昨日までヘリポートのお話をさせていただきましたし、加藤議員の質問の際に、ちょっと集落の孤立ということで対応もお話しさせていただきました。関係機関と連携する中で、そのときでき得る対応をしてみたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

災害時だけではなく、救急時のドクターヘリの要請基準というのはどのようになっていますか。ドクターヘリが使えない場合は、どんな状況のときでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、ドクターヘリの要請基準につきましては、119番受信時に通信員が、あらかじめの想定事例、あるいは関連キーワード、このような場合にはドクターヘリを要請できますよというところで判断いたしまして、要請いたします。

また、その際、要請しなくても、救急隊が現場到着時に判断した場合に、キーワードといいますか、そういった要請基準はあるんですが、それに該当した場合には、迷うことなくドクターヘリを要請しております。

また、出動できない条件といたしましては、運行時間外、夜になると飛ばませんので、運行時間外、あるいは気象状況、それから新潟県には長岡と新潟にドクターヘリがありますが、2機とも出動していた場合、要請しても飛行していただけないといったこともございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

昨年、私の友人が大動脈解離になりまして糸魚川総合病院に搬送されて、応急処置をされた後、県内に受入れ先が先がなく、富山の病院にも受け入れてもらえず、長野の篠ノ井総合病院に運ばれた事例がございます。発症後、すぐに治療を受けなければ命に危険が及ぶ病気でも、長野に向かうには、山を越えなければならない、気圧の関係でドクターヘリが使えなかったというふうに聞いております。

もしかしたら、先ほど消防長、夜とおっしゃったので、その方も夜だったので、それもあったのかなと思います。糸魚川総合病院で、委員会協議会を行った際にも、院長先生にもお聞きしましたが、動脈解離の場合は、長岡とか富山と、糸魚川から100キロ以上離れてるところへ行くしかないというお返事を頂いております。

このように上越圏域でも急性期を救うのが難しい疾患は、ほかにはございますでしょうか。

また、ドクターヘリが使えない疾患というのがありますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

先ほど長野県への搬送事例でございますが、夜ということもあったんだと思いますが、糸魚川総合病院との検討の中で、糸魚川総合病院の要請は救急車でということで、救急車での搬送となりました。また、糸魚川から基幹病院へ集約すべき医療は複数上げられておりますが、市でも脳血管疾患、それから心疾患は、急性期において一刻を争う疾患だそうです。

消防本部の対応といたしましては、救急救命士が観察結果から、そのような症状があった、疑いがあった場合には、管外の医療機関を選定いたしまして、搬送する体制となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ドクターヘリが使えない場合があるということも考えて、やはり救急搬送の確立と同時に、道路の整備というのが、なおさら必要なのではないでしょうか。

糸魚川総合病院には、令和7年に予想する病院機能の救急において、救急車増による高次医療機関への搬送の強化を上げております。協議会で伺った話では、糸魚川から基幹医療センターに向かう救急車を上越圏域からドクターカーが迎えに来るような形で、高速道路や道の駅で時間と場所を決めて出会う、ランデブーさせて、患者はそのままに、車内の救急医療体制のみ交代して、救急車

に運ばれてから20分ぐらいで急性期における初期対応に臨むという説明がございました。

今、消防長おっしゃるように、急性期において一刻を争う疾患がございます。今回の震災を受けて、緊急時の避難経路、そして地域医療構想の進捗に伴う市民の命を守るという観点から、市長、上越、富山、長野3方向へ続く新たな道路の整備を早めることが大きな時代の要請になると思いますが、市長のお考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしくそのとおりでございまして、本当に能登半島地震において、よりそれを身近に感じたわけでございますし、我々、ただ単に、海岸を面してるだけではなくて、その海岸といいますか、海洋の中に断層があるというのも事実、歴然とした事実でございますので、そういった事柄をやはり大きな道路整備において、今までと同じではなくて、進捗を進めていただきたい。そして、その防災と道路、安全な道路に、8号に並行して、この海岸線に平行して8号があるわけでございますので、やはりその要望、そして、と言いながらも、地形的に見ても、やはり土砂崩壊が発生しやすい地形であったり、急峻な地形の中に道路が位置づけしてるわけでございますので、長野県のほうに通じる道、地域高規格道路の早期な整備を、そしてまた、今ある、計画しておる以上に、安全な道を求めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひともよろしく願いいたします。

では最後に、5番目の質問に移りたいと思います。

一人一人の市民が取るべき命を守る行動の正しい認識という必要性ということで、震災後、私も市内を回って、いろいろな状況を聞きました。今回の質問、皆さんされてますけども、私はその中でうれしいなと感じたことの一つに、日頃から訓練をされていた地域の方々が、地区の避難がうまくいったことを誇らしげに話してくださったことをまずはお伝えしたいと思います。災害時には、そんなことが起こるわけないとか、まだ大丈夫といった正常バイアスという心理が働く中で、地震があまり身近でなかった糸魚川市民が、津波警報だけで自主避難できたということは、大いに評価すべきだと思います。

一方で、残念だったことは、先日の全員協議会や今回の一般質問でも多く上げられていますが、市民の中には、災害時には、発災時には誰かが安全な場所に誘導してくれるだとか、誰かが避難に必要な物資を用意してくれるといった、自分の命は自分で守るという意識が足りない方もいらっしゃるのではないかと感じますが、この点について消防長の見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、その前に先ほどの質問の中で、ドクターヘリの搬送できない疾患と、私、答弁、説明しておりました。そんな中で先ほど言ったとおり、キーワードとかと判断いたしまして、もしこれがドクターヘリ必要だなと思うようであれば、まずは要請するといったところで、こちらのほうでは疾患によってできる、できないという判断はせず、ドクターヘリが必要だと思えば、要請して、ドクターヘリのほうで判断していただくという対応となります。大変失礼いたしました。

また、今ほどの質問ですが、確かに今回、訓練の成果が生きてたというお声を聞き取り調査の中でも多く頂き、私もうれしく思う反面、また、行政のほうでもしっかり対応していかなければいけないなと感じたところです。

そんな中で今、議員おっしゃるとおり、やっぱり市民から、ますます意識を高めていただくというようなところで、いざというときは自分や家族の生命、財産を守るためには、まず、自分自身で備える、以前から言っております備える、備えるというのはいろんな意味の備えるなんです、それが重要でありまして、平時からハザードマップにより、避難場所や避難経路などを確認しておく。また、家族でも食料等の備蓄を行う。また、地区の防災訓練があれば参加していただくなど、繰り返しになりますが、平時から備えるように、我々も周知啓発に努めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今回は、行政職員さんに対して様々な声が寄せられていました。昨日も参集基準というのをお聞かせいただいた中で、今、消防長にもお伝えいただきましたが、発災時には、一人一人が自分の命と避難行動には、自分自身で責任を持ってという意識をやはり広めていくことが、一番市民の命を救うことにつながるのではないかと感じております。

そして、備えや訓練においても受け身ではなく、自ら率先して行ったり参加したりすることの意識をもっともっと広めていかなければならないのではないかなというふうに感じております。そして、避難に支援が必要な方については、やはり地域への周知と、日頃からの訓練による共助が大切な要素だと私は感じました。

そして、災害時には、行政として、市民の安全・安心を守ることは、職員の皆さんにも市民にも、使命であると思うところがあると思います。

しかしながら、これまで経験したことのないような、この間のような地震のとき、発災時には、行政職員さんも一市民であること、そして、大切な命、守らなければならない命があるということ、行政にもできることとできないことがあることを市民にしっかりと共有し、それぞれが果たすべき役割を明らかにして、同じ方向を目指すことが大切だと思いますが、こちらについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

私が答弁すべき点を全て横山議員からおっしゃっていただきましたので、答弁することはありませんが、繰り返しになりますが、私、初動時、発災時には、公助がなかなか100%機能しないと、これ決して公助がさぼってるといったところではなくて、今おっしゃられたとおり、職員も被災する可能性もありますし、登庁できない可能性もあります。そのほんの僅かか長い時間になるかもしれませんが、そこを自助・共助で頑張っていたきたい。そのためには自助、じゃあ公助は何なんだということで、今まさにこの平時、それぞれの際に、自助、共助、公助が盛んに出ております3助が連携するといったところが大事だと思います。その際には、公助を今まで以上に頑張っていかなければいけないと、能登半島地震を契機に、私、痛感させられました。そんな中で、平時においては皆さんと連携して、対応してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

市全体で、市民も行政もみんなで助け合っていきましょうというのが平時にしっかりと、もっともっと認識が高まるようにしていければいいなと思います。

先ほどの、まだ大丈夫と思う正常バイアスを防ぐ訓練の一つに、思考を停止せず、考え続けることが大事だとされています。これを今回の災害時にも、そして、糸魚川市の未来の持続にも当てはめて、課題は今後の糧にして、そして、よい評価は、さらに高みを目指して、共に考えていけるような糸魚川市であってほしいことを願ひまして、私の一般質問を終わりにしたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。

再開を25分といたします。

〈午前11時19分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）